

55 ウールンチブシ

(勝連按司の難題・アガデーガマ由来)

名城という部落にね、とても強い武士がいらっしゃったらしいよね。この武士がね、

「嫁さんを探すにはどこに行ったら嫁さん探せるかねえ」と言うて歩き回る時に、ある年寄りのお婆さんと会って、

「私は嫁さん探したいんだけど、どこにいないかねえ。私と似合う嫁さんいないかねえ」と問うたらね、このお婆さんが言うには、

「あなたと似合う妻は、勝連按司と行ってね、その娘さんだったらあなたには似合うはずだけど、しかしあその娘さんは按司の子だから難しいんだから、よく考えて行かないと簡単には上げないはずよ」と言われたらしいよね。

「じゃあ、まず馬に乗っていつぱい偵察して見て来ようね」と言ったらしいよね。そしたら、向こう行つて見たら、やっぱしこの、美人だから、自分が妻にして

もいいと思つたんでしよう。向こうで、

「嫁さんになつて下さい」と言うたらね、向こうから、「じゃああんたは、これを嫁さんにするなら、馬二匹に鞍を一つ載せてきたら上げる」と言われたから、このまた武士は帰つて来て、このお婆さんに、

「こんなに言われたんだけど、どうしたらいいですかね」とこの年寄りのお婆さんに問うたら、このお婆さんが言うには、

「じゃあ、妊娠した馬に鞍を一つ掛けて行ったら、これが子どもが出来たら二匹になるから、妊娠した馬に鞍を掛けて行きなさい」と言われたらしいよね。この武士もまた、ああなるほどと思つて、こんなんして言われた通りに行つたらしいよね。

たらまた、向こうでは、今度はこれを合格したんだけど、

「流れる水にきれいな薔薇の花を浮かべて、薔薇の花流れたらどうしますか」と言われたらしいよね。そしたらこれも返事にまた、

「そんなにきれいな花は取つてみたいなあ」と、そう返事をしたらしいよね。そしたらこれも合格したらしい。

い。

今度はまた、これも二つは合格したから、

「今度はもう一つ合格したらあげる」と言つてね。今度はまたたくさんの人集めて、たくさんだったから、簪を選ぶでしょう。簪を選ぶ時には、竹を三つ切つて来てごう、竹の上にお膳を載せて、その上にご馳走作つて入れてあつたらしいよね。それで、みんなの前に置いたら、この御飯とつて食べ切れる人だったら、もう簪を置いてないから、嫁さんを上げるに決まつていますでしょ。で、あの、みんなは考え切れなかつたらしいけど、この武士はね、小刀も置いてあるから、竹を刻んでお簪に作つて食べたら食べられるなあと思つたからね、この竹を小刀で割つて食べたらしいよね。そしたらこれも合格して。嫁さんをもう貰えることに決まつたらしいよね。

そしたら、決まつたから今度はもう結婚して、いくらかも日にちたつてからでしょ。このもう、嫁さんにすることに決まつたから結婚してお家に連れて来てね、連れて来て普段の生活をしていたんでしよう。

その時に、オランダから名城にこんな強い武士がい

るという話だから、噂話だから、

「本当にいるかねえ、私たちと力比べが出来るかねえ」と言うて、向こうから望んで来たらしいよね、浜辺に。そしたらこの名城の武士はね、浜辺に百姓の支度をして、簡単な支度をしてね、浜辺に行つて、普段の人みたいに浜辺に行つてゐる時に、そのオランダ人は寄せて来ているんでしよう。そしたら、このオランダ人はね、

「あなた、この部落に武士がいるとの話だけど、あなたこれ知ってますか」と言うたら、

「はい知ってますよ」と言うたらね、

「じゃ、あんたこれ呼んで来てくれないか」と言うたら、

「はい、呼んで来てはくれるんだけど、何か私の望み通りね、私の希望を通してくれたら呼んで来てくれますよ」と答えたらしいよね。であの、

「あんたの望み通り何をあんた欲しいか」と言うたら、「私は刀、太刀ね、あれを欲しい」と言つたからね、「じゃあこれを約束通り上げるから、あんた呼んで来てくれ」と言つてね。呼んで来てからこの太刀を一つ貰つ

てね。自分の家へ、

「じゃ、呼んで来ますから」言うて、実は自分が武士だから、また百姓の支度をしているんだから、着物着替えに行ったんでしょう。で、お家行つて、妻もまたやつぱし按司の娘だから、やつぱし妻も武士の家だからね。

「私はこうしてオランダ人と力比べするから、大勢で私は一人であるしね、もしや負ける時、私の着物にね、血が付いていたらね、私はもう切られている証拠だから、その時はあなたもそのつもりでやりなさいよ」と話はして出たらしいよね。

そしたら、大勢の人だから、どうせ戦つて、みんなこの短刀でみな切り殺して、相手をみな。で、自分は相手をみな殺したから、今度は自分の着物に血が付くわけですよ。それを妻は、ここで立つて眺めて見ていたらしいよね。そしたら自分の旦那さんが着物に血が付いているから、もう生きていないねと思つて、妻はそこで切腹したらしいよね。そしたらこのウールンチブシ（大殿内武士）も、負かしてはいるんだけど、妻が切腹したから自分ももう切腹したとの話だけど。

このまたそこで倒れた人は、名城の後ろの北側に大きなガマ（洞穴）がありますよね。今もありますよ、このガマはね。そこをアガリエとかアガリエガマとこのへんの人は言うていますけど。その人が初めてこんな大勢の人を殺して入れたから、初めての穴だからつて、アガデーガマと付けたという伝説になっているらしいよ。

字小波蔵 伊敷ヨシ